



## 交流の内容

12月19日にブータンから来校者がお見えになり、16期生が交流を行いました。5時間目は柔剣道場を利用して学年全体で歓迎会を行いました。ブータンの方々からはダンスの披露があり、学年の先生方も途中で参加するなどして大変盛り上がりました。また、16期生からは柔道・剣道選択者有志や、有志団体（日本舞踊、空手、プロジェクトマッピング）がそれぞれ技や作品を披露し、日本文化の紹介をしました。

6時間目は各クラスの教室に移動し、ブータンの方々からはブータンに関する紹介があり、16期生からはクラスごとにブータン・日本双方に関するクイズや折り紙などを用いて交流を行いました。

また、放課後には有志生徒が同伴して、科学部と日本文化部かるた班の協力を得て部活動紹介・見学を行いました。

## 感想



今回の交流は、私たちにとってとても貴重な体験となりました。漫然と、ただ単調に毎日を過ごしていると、そのうち私たちはその毎日に「慣れ」てしまいます。この「慣れ」は少なからず視野を狭め、多角的な視点を奪っていきます。様々な分野で急速にグローバル化が進み、多文化共生、異文化理解が求められる現代社会において、「慣れ」によって凝り固まった思考は天敵ともいえる存在です。

そしてこの「慣れ」から脱却するためには、外部からの刺激が必要不可欠です。柔軟で多様な価値観や思考を育むためには、今までの生活にない、自分とは異なった価値観、文化、習慣、その他の背景を持つ他者と交流し、対話を通して、それらを理解していくことが一番の近道だと思います。

その点に関して、今回の交流は完璧に合致していたといえるでしょう。今回来校したブータンの方々、言語、文化、衣装に至るまで私たちの知らないものを持っていました。未知の世界に足を踏み入れ、理解を深めていくことは、精神的にとっても体力が必要になるものです。時間にしてみれば5,6時間目の約100分間という短い間でしたが、16期生には非常に濃密な時間になったのではないのでしょうか。今回の交流が、16期生の皆さんが新たな発見や知見を得る良い機会になったことを切に願っています。

最後に、今回の交流を実現・成功させるために尽力して下さった先生方、実行委員会の生徒の皆さんにこの場を借りて深く御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

